



9月1日と「自粛警察」

町史編さん協力員 近藤 肇(近代担当)

9月1日は「防災の日」として昭和35年(1960)に制定された。大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災に由来する。

相模湾北部を震源とする海溝型のこの巨大地震は、観測史上最大規模の死者10万5000人という甚大な被害をもたらした。

地震及び火災の犠牲者の他に、この大震災の混乱の中で、官憲や民間の自警団などにより、多くの朝鮮人、中国人、社会主義者らが殺害された。この殺害された人々の中に、小坂鉦山出身の19歳の青年がいた。



北島 吉蔵
(加藤文三著「亀戸事件」より)

『鹿角を語る-1953-』の中で当時の山田孝蔵小坂町長が、「大正12年大杉栄氏が甘粕憲兵大尉に殺された前後、その闘士も亡くなっているが、元山の学校を出た生徒で、惜しい若人だった」と述べている。

この「惜しい若人」の名前は記していないが、山田町長より6歳後輩の青年、北島吉蔵と思われる。

『20世紀日本人名辞典』(2004年刊)によると、「北島吉蔵(キタジマキチゾウ)一大正期の社会運動家。生年：明治37年(1904)3月16日。没年：大正12年(1923)9月4日。出生地：秋田県鹿角郡小坂町。経歴：日立製作所旋盤工見習いとなり、大正8年友愛会日立連合会に加入、9年上京し、自転車製作所などで働きながら労働運動に参加。11年南葛(なんかつ)労働協会の結成に参加し、12年理事となるが、関東大震災後亀戸警察に検束され、虐殺された」としている。

北島を含む10人の社会主義者が、大震災の混乱時

に軍や警察に殺された「亀戸事件」である。

小坂鉦山に生まれ、元山小学校在学時に日立に渡ったこの20歳に満たない社会変革に目覚めた青年が、なぜ殺されなければならなかったのか？

震災の前年に北島も結成に参加した南葛労働会は、最も先進的な労働組合であった。その戦闘的であるとともに理論的な運動の進め方は「南葛魂」と呼ばれており、全国的にも注目されていた。

歴史研究者の加藤文三氏は、その著書『亀戸事件』の中で「東京の他の警察署にも多数の社会主義者が収容されていたのに、亀戸警察署だけで殺害が行われたのは、この亀戸があった南葛の地が日本の革命運動、労働運動、青年運動の中心地であったからであろう」と述べている。

関東大震災のときに、「朝鮮人が井戸に毒を投げ入れた。暴動をたくらんでいる」などのデマの流布によって、多くの朝鮮人や中国人が殺害された。

現在、世界を震かんさせている新型コロナウイルスの感染拡大によって、「自粛警察」なる言葉を目にすることになった。まるで戦前の自警団的な密告奨励社会を思い起こさせる。防災の日となった9月1日は、関東大震災の混乱時にデマによる朝鮮人虐殺、小坂出身の青年北島吉蔵ら社会主義者が殺された亀戸事件につながる日でもある。

まるで新型コロナウイルス感染者が犯罪者でもあるかのような人権侵害、「自粛警察」が、かつて自警団によってなされた同じ過ちを繰り返すことのないよう、願わずにいられない。「防災の日」が、自然災害のみならず「人災の日」であることも忘れずにいたい。

落雪の恐れがある屋根には雪止めを設置しましょう

屋根雪の道路への落雪は、交通を遮断するだけでなく、人命に関わる場合がありますので、屋根雪の落下防止の雪止めを設置してください。

雪止めの設置や屋根の補修にも住宅リフォーム補助金が適用になる場合がありますのでご相談ください。

■お問い合わせ先 建設課建設班 (TEL29-3910)

鹿角音楽祭の中止について

11月3日(火)に予定していた鹿角音楽祭は、全国での新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、中止となりました。

■お問い合わせ先 教育委員会総務班 (TEL29-2342)

秋季 廃蛍光管の収集

収集日 9月13日(日)

指定の場所に出してください。指定日以外は受付ませんのでご注意ください。

収集箱設置場所

役場正面入口脇、セパーム正面入口脇、ゆーとりあ正面入口脇、川上公民館玄関脇、ほっとりあ正面入口脇、大川岱ごみ集積所脇、休平自治会館玄関脇

出し方の留意事項

- ① テープ等での巻き付けはしないでください。
- ② 蛍光管を包んだ箱や袋は持ち帰ってください。
- ③ 事業所から排出されたものは収集の対象外です。
- ④ 電球やハロゲン球は不燃ごみに出してください。
- ⑤ 当日朝8時30分までにしてください。

■お問い合わせ先

鹿角広域行政組合事務局 (TEL22-2611)

